



第3章 基本計画

木津川市生涯学習推進計画 きずなプラン



第3章 基本計画

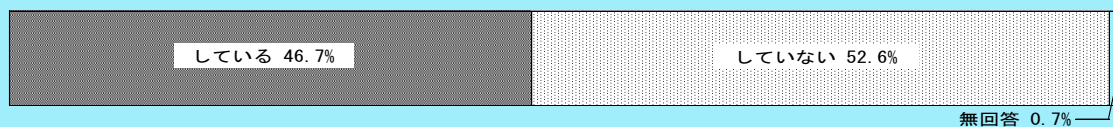
1 人をはぐくむ

現状と課題

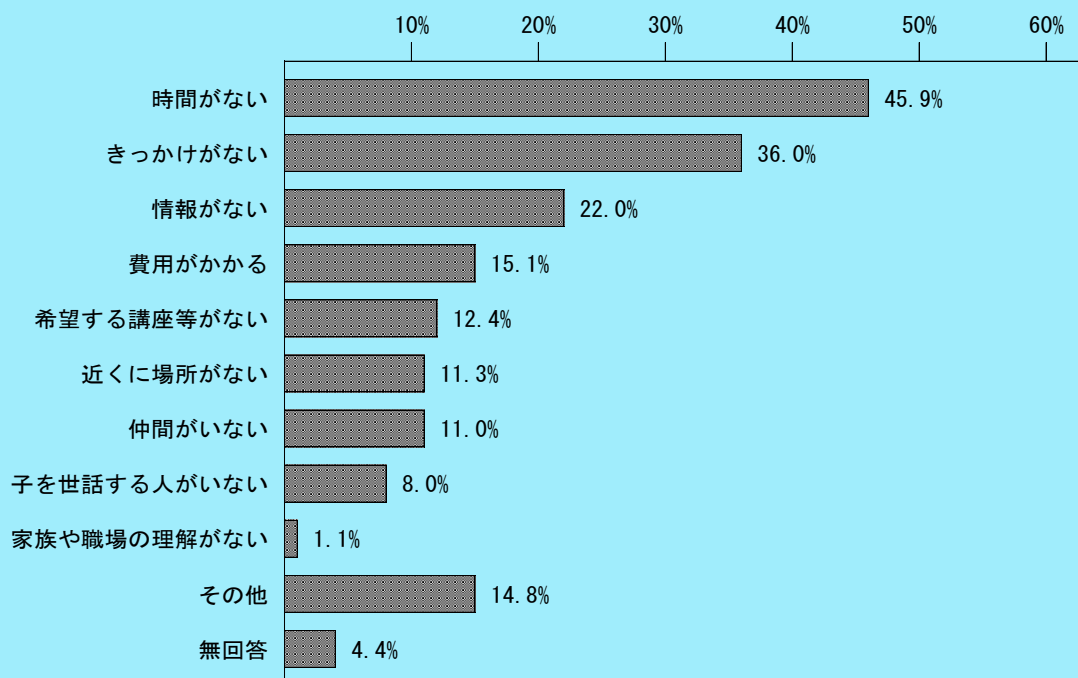
計画策定の基礎資料として実施した「社会教育に関する市民アンケート調査」では、86.1%の方が「生涯学習は大切」と答えられました。しかし、生涯学習活動をしていますかという問いに対して「していない」と答えた方が52.6%でした。していない理由は、「時間がない」が45.9%、「きっかけがない」が36.0%、「情報がない」が22.0%おられました。つまり、「きっかけ」や「情報」があれば、生涯学習に取り組む可能性がある市民の方が数多くおられるということになります。

【市民アンケート調査から】

Q あなたは生涯学習の活動をされていますか。



Q 生涯学習活動をしていない人にお聞きします。生涯学習に取り組んでいない理由は何ですか。



すべての市民が生き生きとした人生を送ることができる生涯学習社会の実現をめざすためには、まだ生涯学習に取り組んでいない人へのきっかけづくりや、生涯学習に関する様々な情報の提供を行うことにより、より多くの市民が生涯学習への第一歩を踏み出していただくための体制づくりが求められています。

重点施策

生涯学習を支える基盤整備を行います

具体的施策

(1) 学習情報の総合的な収集・整理を行い、市民に様々な情報を提供する

- 生涯学習に関連する講座や催しなどの情報を市民にわかりやすく提供します。
- 生涯学習に関する各種情報を収集し、整理を行います。
- 情報提供にあたっては、広報紙、ホームページ、チラシなどあらゆる媒体を活用し、より多くの市民に情報が行きわたるようにします。
- 生涯学習情報誌の内容を充実させます。
- 講師やサークル等の情報を収集し、市民が必要とする情報を的確に提供できる体制づくりを行います。

(2) 気軽に生涯学習に取り組むことができるよう機会の充実を図る

- 公民館などで行っている「公民館講座」「市民講座」「生涯学習講座」の充実などにより、学習機会の拡大を図ります。
- 夜間や休日に開催する講座等を拡充し、これまで参加しにくかった層の受講を促進します。
- 同和問題など様々な人権問題についての正しい理解と認識を深めるための学習機会の充実を図ります。
- 男女共同参画社会の実現に向けた学習機会の充実を図ります。
- 子どもの体験活動を豊かにするため、学校休業日などを利用し、各種体験活動やスポーツ教室、プラネタリウム投影などの事業を推進します。
- 親子で参加できる講座を充実させ、親子でふれあう機会の拡大に努めます。
- 子育て中の人でも参加しやすいよう、託児付きの講座の充実を努めます。
- 障がいのある方も参加しやすい学習機会（スポーツを含む）の拡充や環境整備に努めます。
- スポーツ推進委員会などと連携し、気軽に取り組めるニュースポーツの普及に努めます。

- 幼児期から身体を動かす習慣を身につけるスポーツの機会を充実します。
- 高齢者などを対象とした健康増進や体力向上のための教室の開催など、生涯スポーツの振興を図ります。
- 高齢者の生きがいづくりのための学習機会を充実します。
- 退職を迎える方たちの仲間づくりや、地域活動に参加するためのきっかけづくりを積極的に行います。

(3) 地域的課題や現代的課題に対応した学習内容の設定を行う

- 各地域で抱える課題について、解決を図るための支援を行います。
- かつて経験した南山城水害などの災害について語り継ぐとともに、市民の防災意識を高めるための学習機会の充実に努めます。
- 学習内容の設定にあたっては、市民ニーズを把握し、新規受講者増加を図ります。
- 木津川などの豊かな自然環境、かつて都が置かれ、日本の首都機能を果たした恭仁京や、最先端の研究を行う関西文化学術研究都市など、木津川市ならではの資源を活用し、郷土への愛着を深めるための取り組みを進めます。
- パソコンなど情報通信に関する学習機会の充実に努めます。
- 木津川市の歴史や伝統文化について理解を深め、次の世代に語り継ぐための取り組みを行います。
- 子どもたちが安心、安全な放課後を過ごせる居場所づくりに努めます。

(4) 生涯学習に関する相談を気軽に行うことができるよう相談体制の充実に努める

- 生涯学習について気軽に相談できる相談窓口の設置を進めます。
- 市内で活動する団体やサークルの活動状況の把握に努めます。
- 団体やサークルが求めている情報の把握と提供に努めます。
- 市民から寄せられた相談や要望などを整理し、必要に応じて計画的に改善に努めます。

(5) 生涯学習施設をより利用しやすい施設とするための整備を行う

- 利用者の生の声を聞き、施設運営に反映させます。
- 各施設が地域に密着した学習活動を実践する場として、機能の充実に努めます。
- 老朽化している施設は改築等を計画的に進めるとともに、施設の配置や機能の再編を図るなど、利用しやすい施設整備と良好な維持管理に努めます。
- 指定管理者制度導入施設では、指定管理者との連携を密にし、市民サービスの更なる向上に努めます。
- 職員の専門性を高めるため、研修機会の充実に努めます。

2 こころを結ぶ

現状と課題

フィールド調査では、指導者の確保やリーダーの養成、新規メンバーの確保など、各団体が様々な課題を抱えながら活動しておられることがよくわかりました。

また、地域における人のつながりが希薄化している中、子どもたちの自然体験活動の不足や大人との交流機会の不足などが指摘されています。家庭、学校、地域がそれぞれの役割を果たしながら連携し、地域ぐるみで子どもを育成する環境づくりを行うことが必要です。あわせて、一人ひとりの個性が尊重され、人と人が相互に支え合う共生社会の実現も求められています。

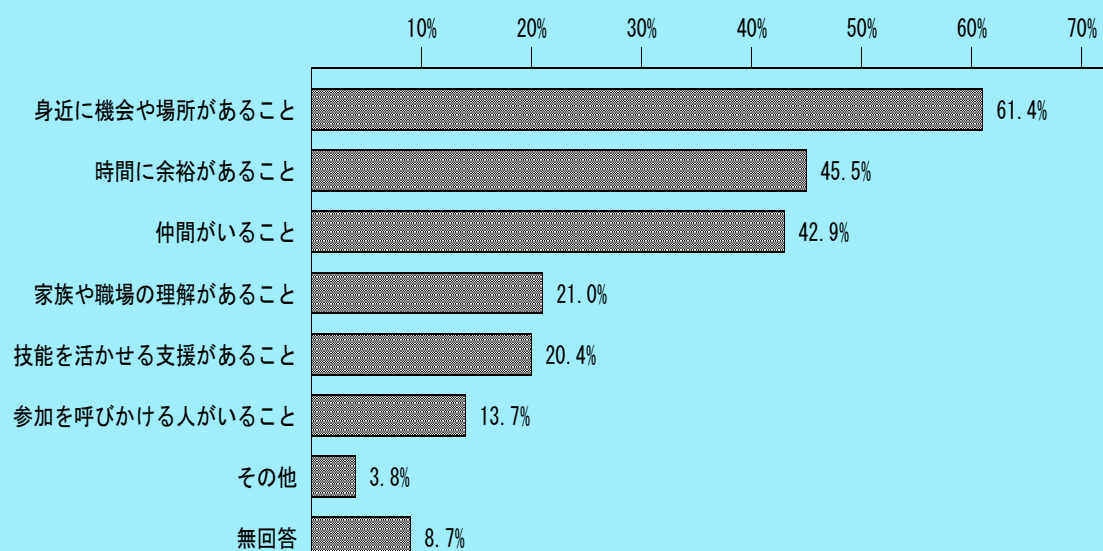
そのため、生涯学習での学びを人とのつながり、地域づくりにつなげていくためには、交流機会の充実やリーダーとなる人材の発掘、育成が必要となります。

重点施策

市民との連携・協働を図ります

【市民アンケート調査から】

Q 学んだ知識や技能を活かすために必要なことは何ですか。



具体的施策

(1) 学校・地域・家庭の連携を促進するとともに、地域による学校支援の充実を図る

- ボランティア活動の場づくりのため放課後子どもプラン推進事業を充実させます。
- 青少年の健全育成のための各種活動を推進するとともに、リーダーの養成や確保に努めます。
- 子ども読書活動推進計画に基づき、読書活動に関する理解と関心を高め、学校、地域、家庭の連携により子どもが読書に親しむ機会の充実を図ります。
- 学校支援地域本部事業の充実を図り、市内全域で地域が学校を支援する体制の確立を目指します。
- 家庭や地域の教育力を向上させるための事業に取り組み、地域ぐるみで子どもを守り、育てる体制づくりを行います。
- 市民の身近な施設である学校施設を活用した活動の実施について検討を行います。

(2) NPOや企業、高等教育機関との連携を図り、生涯学習活動の充実を図る

- 計画を着実に推進していくため、NPOや民間教育事業者等と積極的な連携・協働を図ります。
- 市民の多様化するニーズに応えるため、大学などの高等教育機関との連携を図ります。
- 京都府や関係機関が実施する関連事業とも連携しながら、学習支援サービスを充実します。
- 関西文化学術研究都市にある研究所等との連携を積極的に図ります。

(3) 地域交流活動を支援し、人と人のネットワークづくりを推進する

- 地域コミュニティ単位で世代を超えて交流を図る事業が実施できるよう支援を行います。
- サークル間の交流を促進するための取り組みを進めます。
- 体育協会や文化協会などの関係団体と連携し、多くの人に参加できる大会や催しなどを開催します。
- 国際理解を深めるための取り組みを行い、国際交流を推進します。
- 市内在住の外国人も参加しやすい学習内容の充実や日本語教室の充実により、ふれあいの場の創出を図ります。
- 講師情報の提供や活動場所の紹介など、新規サークル結成についての支援を行います。

(4) リーダーとなる人材の発掘と育成を図る

- スポーツ指導者の育成を図るため、指導者育成研修等に積極的に参加できるよう支援を行います。
- 子どもから高齢者まで、幅広い年齢層におけるリーダーの育成を図ります。
- 様々な特技や能力を持った人材の掘り起しと活動の場の提供に努めます。
- 関係機関が実施する指導者研修等の情報を収集し、市民に情報を提供します。

3 まちを創る

現状と課題

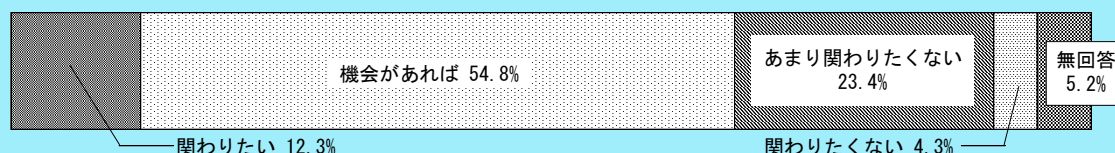
市民アンケート調査では、地域づくりに関わりたいと思いますかという問いに対し、「関わりたい」「機会があれば関わりたい」と答えた方が67.1%おられました。活気あるまちづくりを行うためには、それぞれの地域が元気で、そこに住んでいる人たちが生き生きとし、輝いていなければいけません。そのためには、「人づくりは地域づくり、地域づくりはまちづくり」という考えのもと、市民一人ひとりが学んだ成果を活かし、市民活動や地域活動へと結びつけるための仕掛けづくりが必要です。すべての市民が生きがいのある充実した人生を送ることができる生涯学習社会の実現に向け、学びの成果をまちづくりにつなげていく施策の推進が必要です。

重点施策

生涯学習推進都市を目指します

【市民アンケート調査から】

Q 今後、地域づくりに関わりたいと思いますか。



具体的施策

(1) 講師・ボランティア情報の収集と情報の整理を行い、市民に的確な情報を提供する

- 指導者やボランティアとして協力していただける市民の情報を収集し、情報の一元化を図ります。
- 関係機関と連携し、指導者等の情報を共有します。
- 登録者に講座等の講師を依頼するなど、積極的な活用を図ります。

(2) 自主グループ活動への支援を行い、地域コミュニティ活動を推進する

- 多くの市民が参加し、市民主体の地域づくりにつながる事業を推進します。
- 学びの成果が地域づくりに生かせるよう自主的な団体・サークルへの支援を行います。
- 地域的課題解決のための学びの場を創出し、課題解決を支援します。
- 地域の子ども会組織の育成を図るとともに、地域活動を支援します。

(3) 学んだ成果を発表できる場の提供や成果を活かせる機会を積極的に創出する

- 日頃の学びの成果を広く発表するための機会を充実します。
- 発表の場にこれまで参加していない団体・サークルにも参加を呼びかけ、交流を促進します。
- 発表の場が人々の交流の場となるよう内容の充実を図ります。

(4) 市民の様々な活動を支援し、まちづくりへの発展を促進する

- ボランティア活動に関するコーディネート機能を充実します。
- 身近な学びの場となる社会教育施設間のネットワーク化を図ります。
- 市民の様々な活動が地域に根ざした活動となるよう支援を行います。



